

# 令和 8 年度（2026年度）事業計画

公 1 地震工学および地震防災に関する  
学術・技術・教育の振興と普及

自 令和 8 年 4 月 1 日  
至 令和 9 年 3 月 31 日

公益社団法人 日本地震工学会

## 令和 8 年度(2026 年度) 事業計画

### 公 1 地震工学および地震防災に関する学術・技術・教育の振興と普及

公益社団法人日本地震工学会

日本地震工学会は、2001 年 1 月 1 日に任意団体として創立された当初から、地震工学に関する分野横断的な調査・研究の推進、地震災害軽減のための国際的活動の展開、地震防災に関する提言・知識の普及および防災教育等の社会的活動、の 3 つの柱で活動を行ってきた。2010 年 2 月 4 日に任意団体から一般社団法人に移行し、これらの活動の更なる充実を図ってきた。そして、創立から 12 年経った 2013 年 5 月 1 日には、公益社団法人として新たなスタートを切った。定款には、「この法人は、地震工学および地震防災に関する学術・技術・教育の進歩発展をはかり、地震災害の軽減に貢献する事業を行い、もって社会の発展に寄与することを目的とする。」とあり、創立当初からのぶれない柱が脈々と受け継がれている。

本年度は公益社団法人に移行して 14 年目となる。公益法人としての円滑な運営を今後も着実にやっていくとともに、公益事業を推進する。研究委員会活動の推進や研究発表機会の充実といった学術的発展、他学会ならびに産官学、防災関連団体、報道機関といった社会との連携、講演会やマスコミなどを通じた社会への情報発信等に取り組む。地震工学の専門家集団として社会に地震災害の実態と対策を伝え、地震災害の軽減に向けて上記の取り組みを積極的に行うために、以下に示す 1～8 の事業を実施する。

1. 調査研究とその振興
2. 研究発表会の開催
3. 会報と論文集および研究成果等の発行
4. 文献・資料の収集および活用
5. 講演会・講習会・展覧会・見学会等の開催による普及活動
6. 国内外との学術・技術・教育の交流
7. 業績の表彰（表彰・顕彰事業）
8. 日本地震工学会機構運営に関する所管事業

以降に各項目の詳細を示す。

## 1. 調査研究とその振興

### (1) 目的と概要

地震工学分野の調査・研究を進展させ、成果を広く国内外に還元して社会の地震防災力向上に貢献するため、各種の調査研究委員会を設ける。その振興、統括は研究統括委員会が行う。また、必要に応じて、研究統括委員会とは別に会長直轄の委員会である「会長特別委員会」を設ける。

### (2) 2026年度調査研究委員会等活動計画

2026年度は次の3つの調査研究委員会の活動を実施する。また、本会の目的に合致した新規提案が行われた際には、研究統括委員会での審議を経て調査研究委員会を組織し、調査研究活動を実施する。

#### 1) 地形を考慮した地震動特性に関する研究委員会

(委員長：津野靖士、設置期間：2025年4月～2028年3月)

日本国内において特徴的な空間変動が確認される地形をDEMデータ等から抽出し、委員合同で地震観測を実施する。取得データと防災科学技術研究所のK-NET及びKiK-netに代表される地震データを用いて、地形を含め不整形地盤や地盤非線形が地震動に及ぼす影響を評価する。また、地震動シミュレーションにより地形が地震動に及ぼす影響を評価する。情報発信として、ESG7ブラインド予測テストなどに係る国内ワークショップを開催する。第17回日本地震工学シンポジウムで特別セッションを企画する。

#### 2) 津波荷重評価に関するシミュレーションレビューと実装研究委員会

(委員長：鳴原良典、設置期間：2025年10月～2027年9月)

国内外の津波荷重評価に関する数値シミュレーション事例の文献調査を行い、特に三次元CFDモデルを用いた評価手法に関するレビューを重点的に実施する。並行して、解析条件や出力のばらつき、適用上の課題を整理し、技術的な留意点を明確化する。さらに、二次元モデルとの比較や、既往の実験・観測データとの整合性確認を通じて、シミュレーション技術の実務適用に向けた課題を抽出・整理する。新技術との統合可能性についても検討を行う。

#### 3) DASの地震工学への応用に関する研究委員会

(委員長：吉見雅行、設置期間：2026年4月～2029年3月)

DASに関する地震工学系の研究コミュニティ形成のため、まず、初期メンバーによる研究事例の共有、および、委員会メンバーを広く募ることから始める。11月末の日本地震工学シンポジウムのオーガナイズドセッションで本委員会の活動を周知し、さらなるコミュニティの形成を図る。さらに、次年度の講演会・講習会の実施に向けた準備を行う。

### (3) 講演会・講習会等の開催による社会への普及啓発

地震工学や地震防災等に関わっている研究者・技術者・官公庁職員およびこの分野を目指している学生等を対象とした学術的なセミナー、ワークショップ、講演会・講習会等を実施する。

### (4) 地震災害対応活動

国内外での地震災害発生時には地震情報を収集し、必要に応じて調査団を派遣し、調査結果を社会に発信する。

## 2. 研究発表会の開催

### (1) 日本地震工学会年次大会（担当：大会実行委員会）

日本地震工学会は、地震工学に関連する横断的な幅広い研究課題について発表し議論を行うことにより、地震工学の進歩・普及に資するために年次大会を開催している。ただし、2026年度は熊本にて第17回日本地震工学シンポジウムが開催されるため、年次大会は開催されない。

2027年度の年次大会は日本地震学会と合同でイベントを実施する計画となっている。このため、2026年度は日本地震学会と連携してイベント企画を検討し、その準備を行う。

### (2) 日本地震工学シンポジウム

2026年11月開催の第17回日本地震工学シンポジウム（17JEES）に向け、企画・運営および発表プログラム等の準備を行うとともに、運営にかかる予算管理を行う。特別講演会、市民向け企画、及び見学会の企画もあわせて行う。開催後は、日本地震工学会論文集17JEES特集号の編集作業を支援する。

## 3. 会報と論文集および研究成果等の発行

地震工学および地震防災の分野における最新情報などを発信するため日本地震工学会誌およびJAEE Newsletterを発行する。また、これらの分野の発展に資する最新の研究成果を公開・共有するため、日本地震工学論文集や研究成果報告書等が発行する。

### (1) 日本地震工学会誌（会報）（担当：会誌編集委員会）

本法人から社会への情報発信機関誌の役割を担うために、地震工学分野における最新情報や時機を得たテーマを中心とした特集記事等の編集作業を行う。これらを掲載した日本地震工学会誌を年3回（2, 6, 10月）発行する。

### (2) JAEE Newsletter（担当：情報コミュニケーション委員会）

日本地震工学会会員に地震工学およびその周辺の学術や技術等に関する情報提供を行ってコミュニケーションを促進させるとともに、日本地震工学会の活動を広く一般に公表するため、JAEE Newsletterを作成・HPへの掲載を行う。また、JAEE Newsletterの新連載のオリジナル企画の充実を図る。

### (3) SNS、Web ページの運営（担当：情報コミュニケーション委員会）

SNS、Web ページを運営し、日本地震工学会会員に地震工学およびその周辺の学術や技術等に関する情報提供を行ってコミュニケーションを促進させるとともに、日本地震工学会の行事・催し物、研究委員会活動、地震災害関連等の情報を一般向けにウェブサイトで広く公表し、アウトリーチ活動を推進する。

### (4) 日本地震工学会論文集（担当：論文集編集委員会）

地震工学および地震防災の発展に資する工学・理学・社会学・人文学等の幅広い分野についての最新情報を会員だけでなく社会および国際的な場へ提供することを目的とし、日本地震工学会論文集〔定期論文集（2月、5月、8月、11月）〕を発行する。

また、2026年度奨励賞候補者の選考と推薦および2026年度論文賞候補者の推薦を行う。17JEESの開催および特集号論文集の投稿（2027年3月）に向けて特集号論文編集委員会との調整を進める。

#### (5) 研究成果報告書（委員会報告書）・地震被害調査報告書等

各研究委員会や地震被害調査対応における活動の成果を広く会員や社会に周知することを目的に、必要に応じて当該活動に関する報告書を作成・発行する。

### 4. 文献・資料の収集および活用

地震工学および地震防災における貴重な文献や資料等を収集し公開する。収集公開する資料の活用は次のような形で行う。

#### (1) 地震工学および地震防災に関連する研究に関する文献リスト

地震による被害データや津波の避難等に関するヒアリングデータなどは各調査研究委員会で収集され研究に活用されている。これらの情報を各研究委員会の報告書の中で取りまとめ、会員および社会に公開する。

#### (2) 地震観測記録（強震記録）

地震観測記録は地震工学や地震防災において最も重要かつ基本となる情報である。全国の各強震観測機関（各電力会社、各民間技術研究所等）から提供を受けた地震観測記録（強震データ）を実費にて頒布する。なお、一部のデータは（財）震災予防協会の事業を引き継いだものである。

#### (3) 学会出版物の電子化および公開（担当：情報コミュニケーション委員会）

日本地震工学会が中心となって行ったシンポジウムや年次大会の梗概集、研究委員会報告書などは、地震工学や地震防災の研究を進めていく上で貴重な資料となる。そのため、これら資料を収集するとともに電子化し、広く会員および社会に対して公開を開始する。

### 5. 講演会・講習会・展覧会・見学会等の開催による普及活動（担当：事業企画委員会）

講演会・講習会・見学会等の事業を実施する。特に、地震災害軽減に向けた普及啓発事業として、若手や学生を対象とした地震工学および地震防災に関する講習会を実施する。

具体的には、毎年恒例の E-ディフェンス見学会や震災予防講演会に加え、動画販売を併用した新たな DX 講習会を展開する。また、研究委員会の設置につながるシンポジウムやワークショップの企画・開催に加え、アーカイブスの販売等についても検討する。

### 6. 国内外との学術・技術・教育の交流

日本地震工学会は、建築分野、土木分野、地盤分野、機械分野（プラント施設等）、海岸工学分野（津波等）、地震学分野、計画分野（防災計画等）において地震工学や地震防災を専門とした研究者・技術者やそれらを学ぶ者から会員が構成されており、関連する分野で開催される地震工学や地震防災に関連する事業に関して共催・後援・協賛等を行っている。2026年度は以下の活動を行う。

#### (1) 地震災害合同調査団の派遣（担当：地震災害対応委員会、地震被害調査関連学会連絡会）

国内で震度 6 弱以上が観測されるか、海外で甚大な被害を伴う地震が発生した時に、以下の活動を行う。

- ・地震情報を収集し、関係者へ配信する。
- ・適宜、収集した地震情報を本会ウェブサイトや会員一斉メールにて提供する。

また、地震災害対応本部が設置された場合には、そのもとで、調査団派遣、調査報告会開催等の対応活動に関する事務局業務を担う。

- ・「地震被害調査関連学会連絡会」による情報収集、調整作業の実施
- ・若手研究者、技術者を対象とした地震調査費用補助の実施

## (2) 共催・後援・協賛事業

本会の目的および活動に有益なものについて、各種団体等からの依頼による共催、後援、協賛依頼に対応し、共に活動を行う。

## (3) 他学会との連携

研究委員会や地震災害対応等の活動および各種連絡会等を通じて地震工学の関連学会との連携を推進する。地震学会との年次大会（2027）の共同開催の計画を策定する。

## (4) IAEE 事務局支援委員会

IAEE（International Association for Earthquake Engineering、国際地震工学会）の日本からの代表団体として、IAEE 事務局の活動を支援する。

## (5) 国際委員会

- ・ニュースレターの英文記事の作成など、日本地震工学会活動成果の海外情報発信と情報交流などを行う。
- ・地震工学に関する海外の学術協会との学術交流を継続する。

## 7. 業績の表彰（表彰・顕彰事業）

地震工学・地震防災分野の発展向上に著しい貢献や研究成果を挙げた者（会員、非会員を問わない）を対象に、表彰・顕彰を実施する。また、この分野の新たな研究推進と将来の社会貢献を担う人材の育成を図ることを目的に、若手研究者を対象とした顕彰を実施する。以下に各賞の目的を示す。

### (1) 功績賞

地震工学および地震防災の進歩・発展に顕著な功績があると認められた者を表彰する。

### (2) 功労賞

地震工学および地震防災軽減における活動、運営、発展に対する業績があると認められた者を表彰する。

### (3) 名誉会員

日本地震工学会の目的達成に多大な貢献をした者、または地震工学あるいは地震防災に関する学術・技術の進歩発展に功績顕著な者に、社員総会の議決を経て、名誉会員の称号を贈る。

### (4) 論文賞

2024年11月1日～2026年10月31日までの期間に日本地震工学会論文集に論文を発表し、独創的な業績を挙げ、これが地震工学および地震防災における学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたと認められる論文の著者である個人を表彰する。

### (5) 論文奨励賞

日本地震工学会論文集に論文を発表した若手研究者（受賞年の4月1日において満35歳以

下)で、その論文が地震工学および地震防災の分野で優れた研究と認められた著者を表彰する。

#### (6) 大崎順彦賞

地震工学に主軸を置き、地震工学に新しい視点や考え方を取り入れ、周辺領域の研究成果を採り込んで課題解決を行うなど、挑戦的で地震工学の裾野を広げるような研究・開発を継続的に実施し、優れた成果を上げた個人（受賞年の4月1日において45歳以下）を表彰する。

#### (7) 優秀発表賞

年次大会に論文を著者として投稿し、優れた発表を行った若手研究者（大会開催年度の3月31日時点で満35歳以下）を表彰する。

#### (8) 感謝状

その年度に於いて特に本会が目的とする地震工学・地震防災分野の発展向上に貢献のあった個人や法人に感謝状を贈る。

### 8. 日本地震工学会機構運営に関する所管事業

この法人の定款に基づく会務を実施するため、以下の機構運営のための委員会、部会を設置しその任務を遂行する。

#### (1) 特別委員会

##### 1) 将来構想委員会

以下の活動を行う。

- ① 2023年10月13日付で公開された最終報告書「日本地震工学会の将来に向けた提案」にて提案された内容を具体化するために、委員会を年4回程度開催するとともに、理事会において提案事項に対する進捗状況を確認する。
- ② 本委員会はオンライン開催を基本とし、必要に応じて対面会議とする場合にもできるだけ（委員が重複する）理事会の直前あるいは正副会長会議の直後に開催する。
- ③ 当会の財政状況の改善も視野に入れて、本委員会の遊撃手的な立ち位置を活かしながら、優先度の高い事項についての検討を継続する。
- ④ 理事会の各委員会担当理事と協力して、提案事項の実施に向けた検討を進める。
- ⑤ 必要に応じて、WGを設置する。

#### (2) 総務・会計

##### 1) 総務部会

総会、理事会、正副会長会議のスムーズな運営をサポートする。また、事務局の学会業務の負担軽減施策と業務の引継ぎによる継続性を確保した運営体制の検討を行う。

##### 2) 会計部会

学会の予算管理を行い、公益目的事業会計と法人会計の会計処理を適正に行うための活動を行う。具体的には、以下の活動を行う。

- ① 令和7年度（2025年度）決算案の策定
- ② 会計士及び監事による会計監査の実施
- ③ 令和8年度（2026年度）予算執行状況に関する管理月報の管理、理事会への報告
- ④ 令和9年度（2027年度）予算案策定（総務部会と合同）

##### 3) 広報部会

学会活動や関連分野の調査・研究成果等を目的に応じて効果的に情報発信するための検討

を行う。

- ① 学会誌（年3回発行）を、国土交通省・文部科学省・気象庁の各記者クラブなどの関係機関に URL 送信。
- ② 学会大会や学会主催のシンポジウム等に合わせて随時プレスリリースを作成し、記者クラブや関係報道機関に配布。
- ③ 国内外のメディアからの問い合わせ・取材対応

#### 4) 選挙管理委員会

役員選挙の管理・運営を行うための活動を行う。2026年度は次期会長候補・監事候補の同時選挙を実施する。

#### 5) 役員候補推薦委員会

役員選挙における委員会推薦候補者を選出する。

### (3) 会員・情報

#### 1) 会員部会

以下の検討、活動を実施する。

- ① 会員増強のための施策の検討
  - 広く会員を募るための会員メリットや会員規約の検討
  - 新規会員の勧誘施策の検討
- ② 会員入会パンフレット作成および展示会等での配布
- ③ スペシャルアドバイザーの増員方法の検討
- ④ 公開講座、出前授業の周知方法の検討

#### 2) 情報コミュニケーション委員会

日本地震工学会会員に地震工学およびその周辺の学術や技術等に関する情報提供を行ってコミュニケーションを促進させるとともに、日本地震工学会の活動を広く一般に公表するため、次の活動を行う。

- ① JAEE Newsletter を作成し、一般向けにウェブサイトに掲載
- ② Newsletter の年3回の発行、新規企画拡充とアーカイブのさらなる活用
- ③ SNS、Web、オンデマンド動画も連携したアウトリーチの立体的連携
- ④ JAEE News(HTML 版)を作成し、学会員にメール配信
- ⑤ 行事・催し物、研究委員会活動、地震災害関連等の情報を一般向けにウェブサイトに掲載
- ⑥ 事務効率化および学会活動に寄与するウェブアプリケーションなどの導入（サーバー更新により選択肢が拡大。無償又は低コストでの導入を検討）

以上